

令和2年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第7号（水稻）

令和2年8月13日発表
 広島県西部農業技術指導所
 対象期間 令和2年8月上旬～8月下旬



1		予報内容（8月下旬まで）		
病害虫名		現況	予報	防除上の注意事項
穂いもち	中生	やや少 (穂いもち)	並	◇出穂前後の降雨により、穂いもちの発生は助長される。穂ばらみ期、穂ぞろい期の穂いもちの基幹防除を徹底する。 ◇葉いもちの発生が多かったほ場では、特に穂いもちの発生に注意する。 ◇にわか雨が多い場合は病勢が急激に進展するため、ほ場を見回り、葉いもちの多発が見られたほ場では直ちに防除する。
紋枯病	中生	やや少	並	◇前年度発生が多かったほ場では、特に発生に注意する。 ◇多湿条件になりやすい茎数の多い品種、茎数が多く推移しているほ場では発生に注意する。 ●要防除水準：穂ばらみ期の発病株率が中生品種で20%以上。
トビイロウンカ		多	多	◇中国地方1か月予報では、今後発生に好適な気象条件となっている。 ※8月13日発表の予察情報警報第1号を参照する。
セジロウンカ		やや多	やや多	◇8月第1半旬の生育ステージは若齢～老齢幼虫期であった。 ●要防除水準：幼穂形成期から穂ばらみ期に10頭/株以上。
コブノメイガ	中生	多	多	◇8月上旬の生育ステージは卵期である。 ◇飛来後第2世代の発蛾盛期は、南部、中部地帯で8月下旬～9月上旬、北部地帯で9月中下旬である。 ●早生品種では、穂ばらみ期、穂ぞろい期の2回防除を徹底する。通常それ以降の防除は不要である。 ●中生品種や収穫時期の遅い品種は、被害株率20%を超える場合、粉剤・液剤は発蛾最盛期の7日後、・粒剤は発蛾最盛期に追加防除を行う。 ※7月16日発表の予察情報技術情報第3号を参照。

斑点米カメムシ類 (カスミカメムシ類、その他加害種) ※1	中北部※2	—	やや多	<p>◇加害力の高いクモハリカメムシの発生が、平年に比べ多くなっている。</p> <p>◇出穂期の防除時期を逸しないようにする。</p> <p>◇出穂期近くになっての畦畔などの除草は、カメムシ類を水田内に追い込むことになる。早生では除草を控える。中生では出穂2週間前までに除草を終える。</p> <p>※1 カスミカメムシ類はアカスジカスミカメなどの小型のカメムシ類、その他加害種はホソハリカメムシなどの大型のカメムシ類。</p>
-------------------------------	-------	---	-----	---

※2 中北部とは、中西部、中東部、北部を合わせた地帯

2

予報の根拠 (現況調査：8月3～5日、26地点調査)

(1) 穂いもち (中生：13 地点調査)

◆巡回調査結果 (中生：やや少 (葉いもち))

	本年	平年	前年
発生地点率 (%)	30.8	52.4	23.1
平均発生程度	1.07	1.15	1.03

(2) 紋枯病 (中生：13 地点調査)

◆巡回調査結果 (中生：やや少)

	本年	平年	前年
発生地点率 (%)	30.8	43.6	46.2
平均発生株率	8.9	8.3	8.3

向こう1か月の気象は発生に好適となっている。

(3) トビイロウンカ (※40 地点調査)

◆巡回調査結果 (多)

	本年	平年	前年 (注意報発表年)
発生地点率 (%)	77.5	4.4	12.1
平均発生程度	1.28	1.00	1.01

※本年は、通常の26地点に加え新たに14地点で調査を実施。

予察田 (呉市安浦町) における8月第3半旬の100株当たりの発生量は、282頭であった (平年6頭/100株、前年 (注意報発表年) 22頭/100株)。

向こう1か月の気象は発生に好適となっている。

(4) セジロウンカ

◆巡回調査結果（やや多）

	本年	平年	前年
発生地点率 (%)	84.6	80.9	96.2
平均発生程度	2.16	1.75	1.32

向こう1か月の気象は発生に好適となっている。

予察田（呉市安浦町）における8月第3半旬の100株当たりの発生量は、666頭であった（平年809頭/100株、前年728頭/100株）。

(5) コブノメイガ

◆巡回調査結果（多）

	本年	平年	前年
発生地点率 (%)	80.8	19.4	23.1
平均発生株率	20.5	1.8	2.8

向こう1か月の気象は発生に好適となっている。

(6) 斑点米カメムシ類

【予察灯（呉市安浦町）での7月第4半旬から8月第1半旬までの累計誘殺数（アカスジカスミカメ）】

本年 19頭、平年 96頭、前年 107頭。

◆牧草地すくい取り調査結果については、7月15日発表の予察情報予報第3号を参照する。

「予報」「現況」は、「多～少」の5階級に区分して発表しています。区分の方法は、原則として、過去10年の数値を発生が多かった順に並べて、相対比較しています。

- 「多」 : 1番目（最多年）と同程度以上
- 「やや多」 : 2～3番目と同程度
- 「平年並」 : 4～7番目と同程度
- 「やや少」 : 8～9番目と同程度
- 「少」 : 10番目（最少年）と同程度以下

区分	多	やや多			並				やや少		少
順序	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	

3

その他の病害虫の発生状況（現況調査：8月3～5日，26 地点調査）

病害虫名	現況	防除上の注意事項等
ヒメトビウンカ	並	出穂前後の防除を徹底する。縞葉枯病を発病した株は抜き取る。
フタオビコヤガ	少	穂ばらみ期防除を基本とする。

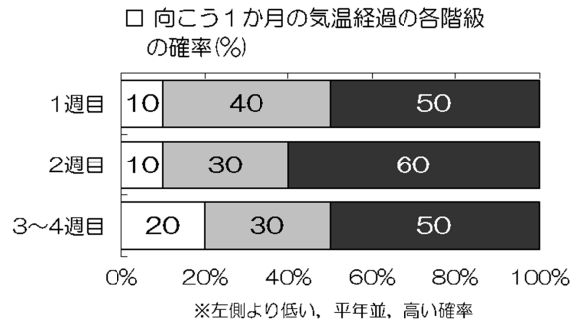
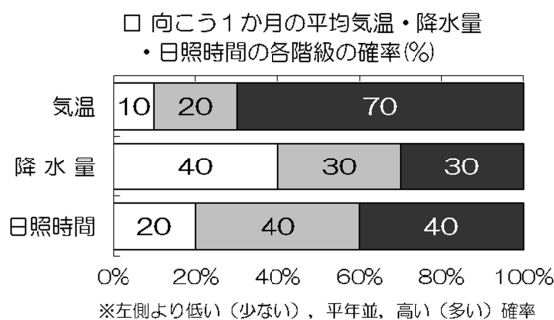
4

気象情報

中国地方1か月予報（広島地方気象台8月6日発表，8月8日から9月7日までの天候見通し）

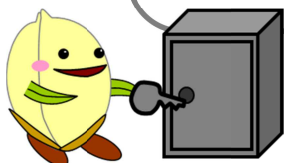
平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は，高い確率70%です。日照時間は平年並または多い確率40%と予報されています。



6月1日から8月31日まで，**農薬危害防止運動**実施中！

農薬を使う際は，容器のラベルをよく読んで，使用方法や注意事項を守り，農薬による危害と事故を防ぎましょう。



粨之進



りもれん

○病害虫発生予察情報やフェロモントラップ等の調査データは，広島県ホームページで閲覧できます。

ひろしま 農業情報

検索



○お問合せ先：広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム

(東広島市八本松町原 6869 tel：082-420-9662)